



## 大本山永平寺

掃塔回向



### 御征忌ごしょうき

九月に入っても暑さの厳しい毎日ですが、朝夕は幾分しのぎやすくなっています。

九月二十九日は道元禅師のご命日で、二十三日より二十九日までの一週間、報恩の行持「御征忌」が行じられます。この期間中は、全国から法要の導師をおつとめいただくご寺院さま方が檀信徒の皆さま方と上山され、厳粛に法要が営まれるのです。

道元禅師は建長五（一二五三）年永平寺の住職を懷奘禅師に禅譲され、その後間もなく療養の為に京都へ上洛されます。そこで俗弟子覚念かくねんの邸宅において手厚い看護を受けられますが、病状は回復されることなく、八月二十八日（陽暦九月二十九日）、大勢の方々に見守られながら五十四年のご生涯を閉じられたのです。

五十四年、第一天を照らす。箇この勃跳ぼつちようを打して、大千を触破しよくはす。唖い。渾身こんしん覺おぼむる無し。活きながら黄泉に陥おつ

この句は、生涯を通して正伝しょうでんの仏法を行じ、その宣揚と弟子の育成に力を費やされた道元禅師の遺偈ゆいげとして伝わっています。

その道元禅師のご遺徳を偲しのび、七六〇年以上にわたり毎年御征忌が行じられているのです。永平寺で修行する者にとっては正に自らが正伝の仏法を学び、行じ、伝えていくことを改めて誓う行持がこの「御征忌」なのです。



大本山總持寺



お彼岸施食会

楽興の時

大遠忌の記念参拝が始まる

来年の峨山禅師六百五十回大遠忌を控え、いよいよ九月一日より大遠忌記念参拝が始まりました。十一月末までの期間中、毎日全国より大勢の参拝者で境内は賑やかになります。

二日には、總持寺のふる里である石川県輪島市門前町より、門前中学校三年生たちが修学旅行の途上に總持寺を訪れ、大祖堂で「門前とどろ節」を御開山瑩山禅師と二祖峨山禅師へ奉納いたします。これはかつて總持寺が能登で輪番住職制度を敷いていたころに、輪番住職が一年の任期を終えて郷里に帰る送別の宴で披露された唄と踊りで、現在まで地元で伝承されております。

また、今月はお彼岸の時節。總持寺では二十日から二十六日まで毎日午後一時から法話、引き続き二時から施食会法要が行われます。特に秋分の日(二十三日)は江川禅師が大導師をつとめられ、大祖堂は参詣の檀信徒で溢れんばかりになります。

お彼岸明けの二十七日には、大祖堂で瑩山禅師ご生誕七百五十年記念のコンサート「楽興の時」(有料)が開催されます。

昨年に引き続きの行持ですが、第一部に前川維那と修行僧が声明(仏典に節を付けた仏教音楽の一つ)を披露し、第二部ではピアノ・ヴァイオリン・チェロの三重奏で色々な名曲が演奏されます。どうぞ大勢のご来場をお待ちしております。

# 曹洞 俳壇

選・村松五灰子

山独活やまうどの茎の白さや酒冷やす

東京都 永関 和准

評 山独活の独特の深い風味と真つ白な茎の歯応えはたまらない。今宵の酒の肴として何よりのもの。「酒冷やす」に満面の喜悦が伝わる。

使わせていただきますする箒草ほうくそう

福岡県 井本匡早子

評 夏に美しい紅色となる。色も落ちれば箒として庭掃除に一役。充分に楽しませてくれて、また箒として感謝の一語。明快である。

◆一雨で水争も収まりて

岐阜県 千藤 恵三

◆来世も多分平凡かたつむり

千葉県 鈴木 英子

◆オムレツのでんぐり返し風薫る

千葉県 蛭名 節昌

◆カナナ咲く元気を出せと云ふように

静岡県 青山 清子

◆仮設では死にたくはなし鬼薊おにあざ

宮城県 渡邊 清

◆大将の無口が良ろし握鮓にぎすし

大阪府 柏原 才子

◆跡継ぎの絶えたる寺の燕の巢

愛知県 松井 曉美

◆短夜や親父に似しか飲み寝ぐせ

埼玉県 中島 新一

◆老いてこそ命の重さ更衣ころもがえ

京都府 藤野 繁

◆春眠に時を遊ばす旅枕

宮城県 小西 力子

\*選者吟

蛸ひぐしや山氣やまけに方位見失ふ

五灰子

\*作句小見

『虚子俳話』に「俳句は品格を尚たっとぶ」とのべています。そして「品格ある俳句の多く世に出ん事を望む。」とあります。とかく俗に流れがちとなる。一句一句心してと思うのです。

# 曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

あの雲が今宵の雨を呼ぶだらう種の蒔きど  
き妻に語れり  
岩手県 関合 新一

評 前日の雲行きを見て農作業の準備をする。古来から農耕民族の取ってきたやり方だろう。静かで厳かな上句がそうつた血の流れを想起させる。下句の「妻の存在が日常に引き戻す役を担い、一首をしつかりと着地させている。」

久に逢ふ亡夫の笑顔と国なまり雨音が消すま  
どろみの夢  
東京都 津久井すみ子

評 雨音で目覚めたと詠わず、夢に現実の雨音を直結させたところが胸を突かれる。雨音に消された亡き夫の声が余韻を引く体言止めも効果的。

◆朝も夕も夜もまた来る苗代に何するとなく来れば安けし  
長野県 毛涯 潤  
◆太陽の出でて明るむ蜘蛛の網の獲物も風もなべて鎮まる  
福島県 大槻 弘

◆黒潮の海をはるかに山の牧草喰む牛に広々とあり  
宮城県 鎌田登喜子

◆着きてすぐ傘干す旅の宿の窓止む気配なき葉桜の雨  
東京都 長谷川 瞳

◆去年の夏の金魚すくいの一匹が春の目覚めに浮き草ゆらす  
大阪府 深谷ハネ子

◆さらさらと若葉の袖にせせらぎて結ぶ命の妙なる光  
長崎県 小玉愛美理

◆万病に効くとふ泉水喉のどにふくみ秩父巡礼五月晴行  
東京都 小池 雪子

◆植え替えて移しかえして白牡丹根付きたるらし七つ花咲  
北海道 佐賀 ユリ

◆梅雨に入り空気の重くなりけるか警策けいさくの音は鈍く響きぬ  
福岡県 森 信成

◆隣り合う右と左の手を重ね何語りあるむ嬸おばが二人  
宮城県 須藤智恵子

## \*選者詠

母の字に雨降ると言う人のいて母逝きし日  
の夕暮れの雨  
ちづ

## \*作歌小見

各地で豪雨が続き、梅雨明けが待たれます。恵みの雨から災害をもたらすものまで、自然の力の大きさをしみじみ思います。しつとりとした情感もはぐくむ雨、今月は秀歌が多く選歌に迷いました。